

令和4年度徳島県立図書館協議会の概要について

I 日時 令和5年1月31日(火)午後2時～4時

II 場所 徳島市八万町向寺山 徳島県立図書館 集会室1

III 出席者

委員 全委員
県立図書館 館長、副館長、館員

IV 次第

- 1 開会
- 2 館長挨拶
- 3 委員自己紹介・職員紹介
- 4 会長・副会長選任
- 5 議事
 - (1) 令和3年度事業実績について
 - (2) 令和4年度事業について
 - (3) 「徳島県立図書館サービス向上目標(第4期)」の推進状況について
 - (4) その他
- 6 閉会

V 概要

- 1 委員の互選により、会長に平井委員、副会長に中委員を選任
- 2 議事の(1)から(3)まで、事務局が説明

令和4年度 図書館協議会 質疑応答 (概要)

【議事(1) 令和3年度事業実績 (2) 令和4年度事業】

委員：新しいネットワークシステムの紹介をしていただいた。先週公開された中、まだ数回しか利用していないが、とても使いやすくなっている。以前は、電子書籍の入り口を利用者に小冊子で紹介しても、わかりにくいというご意見があった。新しい機能だと、わかりやすくなった。また以前は、予約を1冊ずつしなければならなくて、職員としても使いにくかったが、新しいものは、職員も時間短縮でき、何よりも利用者にとってすぐに資料にアクセスできるいいシステムではないかと感じている。

委員：年報38ページのデータの「登録者数」は、何の登録者数か。その累計は。

事務局：貸出カードの登録者数である。累計は、25ページ「昨年度末有効登録者数(163,555人)」。

委員：もう一つ知りたかったのは、年齢データがほしい。そうすると、今後の動向がわかる。現在の人口のボリュームゾーンである団塊の世代が多い場合、今後何とかしないと、急激に減少するなど、いろいろなことがあると思う。知りたいのは、どの年齢層が登録しているのかということ。今すぐの答えがでなくていい。

事務局：県立図書館の利用者は、登録者数そのものは、子供の時に登録する人が多い。ただ、利用されない人が途中で出てくる。登録者数から一歩進んで、できれば貸出カードで実際に借りた人のデータを把握したい。1年間の全ての貸出データをまとめて編集できるような素材としてシステムから抜いてくるという新しい機能を入れている。今後の課題となるが、「20代は。30代は。」というのもわかってくると思う。希望としては、30代、20代、10代後半の利用が少ないと言われているが、その世代が10年後には主力になっている。単に少ないで終わりではなく、少なくなった後もう一度来ていただけるのかを調べられたら良いと考えている。

委員：GIGAスクール事業などで、高校生が新たに登録しているということは結構あるか。

事務局：高校生については、全ての生徒にID、パスワードを配布している。どれだけ利用しているかは、判明しない。

委員：読み聞かせのボランティア活動の団体へのエプロンシアター等の貸出期間は。

事務局：通常の図書と同じ3週間。利用の1か月前から予約可能である。貸出カードでの貸出ではなく、貸出カウンターで申込書を書いていただく。予約は、電話でも受け付け可能。ホームページに読み聞かせの備品等リストを掲載している。

委員：電子書籍の利用について、高校生の利用人数は、わからないということだが、令和元年から2年が大幅に増えているので、時代の流れからなのか、コロナ禍からなのかよくわからないが、令和2年から生徒2万人あまりにIDを発行したと書いてあったので、それが全ての理由にはならないと思うが、今どれぐらい利用しているか興味を持った。学校名やどういうグループかは伏せさせていただきたいが、私自身で先生にご協力いただいて調査したところ、1、2年生を含む生徒55人の中で、高校生になってからの利用なので1年などではないが、県立図書館利用9人、1番多い利用が5回。そのうち電子書籍の利用は6人。6人中1回が4人、2回が1人、5回が1人。何のための利用かというところ、勉強3人、趣味3人。自身の感覚としては、多いと思った。高校生のために今年度も継続して頂いているのが、ありがたい。

事務局：令和2年度、2万人にIDを配布した関係で増加したと思われる。コンテンツ数の増加、電子書籍の展示による紹介なども行っている。電子書籍に限らないが、身近な人から紹介して頂くと、読書意欲がわく。ランキングで、資格試験問題などの利用が増えている。数自体は、はっきりとはわからないが相対的に増えている。

委員：素敵なイベントや展示会をされているが、主にどのような方法で告知、周知しているか。

事務局：イベント広報については、館内でポスター掲示、ホームページ、市町村立図書館にチラシ配布等を行っている。SNSの利用はしていない。効率的な方法を模索している。ホームページも、図書館だけでなく、県のホームページにも掲載したり、マスコミへの資料提供も行っている。

委員：せっかくなので、できるだけ広報してほしい。メルマガ配信、ツイッター等で少し広めに配信されたらどうか。

事務局：館内でも検討したい。

委員：10から20代の利用者について。大学で接している者としては、立地の問題があると思う。小さいときは親御さんに連れて行ってもらい、自身が親になったらお子さんを連れて行くという状態。10代20代の物理的アクセスが一つあると思う。システム更改でスマホ画面の改善は良い。若者世代にとれば、魅力的なものだと思う。ちょうどその年代の者がいるので、聞きたい。

委員：スマホで調べたものをそのままカウンターに持って行って調べてもらえるのは良い。

委員：蔵書検索の、電子書籍の利活用を増やすという意味で言うと、わかりやすいシステムにさせていただいてありがたい。今年度の全国学校図書館協議会のアンケート結果では、ここ数年、読書量が少しずつ増えていたが、コロナ禍で自宅での時間が増えたことによる

と思うが、小学校は少しもちこたえたが、中高が減った。今年度新たに電子書籍の利用件数ということで結果が出ているが、一人1台タブレットはもらっているが、電子書籍を利用する子供たちが思いのほか増えていない。学校ごとにチラシや案内をいただいて案内するが、学校で読書の効果など熱を持って伝えられるかが、子供たちに影響がある。小学校までは、まあまあ読書量があるが、中学校で一気に下がる。部活動、習い事、塾が増えてきてほかの時間がなかなか自由に使えなくなってしまうのが、大きな理由だと思う。2極化して、とても好きな子はずっと読み続けるが、好きだったけど離れてしまって、そのまま大きくなってしまふ。そういう流れができてしまっていると思うが、少しでも読書が好きだった子を手放さないよう、学校現場での努力や、図書館と連携してのアナウンスが必要。

委員：学校からの熱量の話が出たが、一つの原因は、学校司書の配置が進んでいないことにある。小中学校が、徳島県はワースト2位になってしまった。高校図書館は、100パーセント配置。小中学校に関しては、2割3割の状況である。こういった問題を少し考えていかなければ、なかなか読書、調べ学習利用も増えないのではないかと。

会長：大学で、読書の習慣がついてない学生が多々いる。改善したい。

【議事（3）「徳島県立図書館サービス向上目標（第4期）」の推進状況】

委員：ほとんど目標達成ということで、県立図書館が努力してくださっているということで、お礼申し上げる。読書振興協議会でも高齢化により、読書人口がだんだん減ってきたり、地方の方では、目が悪くなったりとか、身体的に遠くへ行けないとか、そういう高齢者にどうやって本を届けるかと考えたときに、やはり図書館と高齢者をつなぐ人は大事なのではないかと考える。へき地に行くと、何時間もかかるようなところが多いので、そういう方たちがネットも使えず、地域の図書館にもなかなか行けない状況なので、パイプ役として人がいればいいといつも思う。行政の事業でやろうと思うと、しぼりが多くなってしまって融通がきかない。これからは、市井の方々の力をお借りするのが、社会の在り方の一つではないかと思う。そういった方々の思いを、うまく受け止めるシステムがあれば、そういう人たちに動いてもらえ、良い社会になるのではないかと。新システムも早く使いたいと思う。レファレンスも、いつもよく利用させていただいて、的確なアドバイスを頂いている。高い志があるので、県民の皆様にも知っていただきたい。

委員：4点ある。まず1点は、いつも年報をいただくと、前書きを読む。入館者数全国2位、蔵書数全国3位、児童書も全国3位とあるが、ここに全国図書館数があるともっと説得力があると思う。30ページに館長名が載っている。協議会に来るたびに館長が変わっている。1年ごとに変わっている。校長先生でも大体2年は続けし、1年でどうしようと思っても、次の時に変えられたらどうしようもない。2年の方もいらしたが、せめて2年サイクルで。本当によくしようと思えば、トップの人事交代が早すぎると思うので、

ぜひ知事に言ってほしい。それが2点目。次に、私は、読書会を日本近代文学にしばって開いて13年になる。メンバーは、女性20人。1か月を本当に楽しみに、どんなにほかに用事があっても飛んでくるというぐらい魅力的な読書会をしている。今日の資料を見ると、読書会のために10冊貸してくれるとあるが、20人なので、無理は言えないが、もっと多いといいなと感じた。もう一つは、徳島県の28の図書館の一覧表が添えられている。本を出版したときに、一括して県立図書館へ持ってくれば、県下の市町村の図書館へ一括配布して頂けるか。

事務局：お持ちいただければ、協力車を使い配布させていただきます。

委員：メンバーがそれぞれ各市町村図書館に運んでいる。一括でできたらありがたい。各館、何冊が良いか。

事務局：県立は3冊、他館は1冊で大丈夫です。

委員：電子化が進んでいるということで、それにより県民へ情報提供がひろがり、サービスが向上しているのは明らか。新システムの導入により、それがさらに拡大していくという期待がある。それに伴って、図書館業務が電算化によりかえって増えてしまうというケースがあるが、そういったことはないか、あるいは軽減につながっているのかどうか。

事務局：基本的に県の職場でもそうだが、業務を効率化するために電算化を進めているところというのが一般的な考え方である。4月から図書館に来たが、それまでは電子書籍や図書館のホームページを見たことがなかった。電子書籍の検索と図書等の検索が別の場面から入らなければならず、使いにくかったが、一括でできるようになった。もう1点、利用者登録がネットですませることができるようになった。そのあたりが窓口業務の軽減につながっていくのではないかと考えている。先ほどのご意見で、館長のサイクルの話があったが、知事に言うのはハードルが高いが、個人的な意見だが、平成4、5年から館長が事務職になり、1、2年で変わるようになっていく。この会が始まる前に担当にお話しさせていただいたのが、質問に対しては各担当がお答えするよということ。司書の方々がこれから10年、20年と図書館を良くしていく、さらに利用者目線でどのようにしていくかということをしっかり考えていただきたいということで、各担当に回答するように事前に伝えてあった。よく回答してくれている。

委員：一つお願いと質問がある。電算化について。スマホ素晴らしいと申し上げたが、スマホでも書架の配置が出て、若い学生が自分で行けるようになるとありがたいと思う。

事務局：ARやVRで最終目的地の棚まで案内するという技術があるが、今どこにいるか把握できる機械が必要。まず、第一段階として館内OPACが1か所に固まっているので、そこからどこにあるのかを案内するのが、今回。もう一步進むと、スマホで見ていただい

て、今の場所から棚まで行けるかとか、さらにVRで矢印というのが理想かと思う。まだスマホをお持ちの方がどこにいらっしゃるのかがわからないので、それが実現できなかった。また、次回になる。

委員：VRの話になるとは思わなかった。配置だけでも出れば、職員の方の負担軽減にもなる。資料2-3の8ページ。質問があったので、「(3) 外部団体との連携」の「①学校」に、「調べ学習に必要な図書を市町村立図書館を通じて貸出したり」とあるが、調べ学習に特化したものか。例えば、朝読に使う本も貸出していただけるか。

事務局：今のところ調べ学習に対応している。テーマを聞いてこちらで選んでという対応の仕方である。朝読になると、何を選べば良いか担当者が迷うところはある。児童・生徒の好みは、担当の先生でないと把握できていないと思うので、「このクラスはこういう雰囲気の子供たちが多いので、こういう本を提供したい」と内容までつめていただければ対応できるかもしれないが、「朝読で何年生の教室に設置したいものを40冊」というのは、難しい。

委員：市町村立図書館に学校司書が朝読の本を借りたいと申し込んだら、「朝読は教育課程ではないので、できない」と言われたという。どういう理由かはわからないが。市町村の話と県立図書館の話は別とは思いますが、朝読は切り分けているのか、市町村立図書館においているのか。

事務局：今のは、市町村の図書館の段階で断られてしまったということか。希望の内容を詰めていただく必要はあるが、当館まで上げていただいたら、何学年でこういう興味を持っている子が多いクラスでというのをいくつか箇条書きで頂けたら、対応はさせていただけるかと思う。確かに今使っているのは、「調べ学習シート」と銘打っているのですが、それを市町村に浸透させるためにシートの名前を変えるなどしていけば、市町村の図書館も窓口として県立図書館まであげていただける可能性があると思うので、また児童担当のものと相談する。

委員：市町村立図書館に断られたということだが、当館では詳しく聞き、各学年の先生に対応させていただいているので、図書館による。対応しているところもある。

委員：県の協議会といった場で、また周知していただけるかと思う。

【議事(4) その他】

事務局：毎年開いている図書館協議会を、来年度は8月中旬以降から9月中旬の1か月の間に開きたいと考えている。趣旨としては、1月ではほとんど年度が終わっており、事業の結果だけを見ることになってしまう。委員から出た意見により予算を見直す必要がある場

合、この時期だと再来年度になってしまう。8月なら次年度に反映できるところもあるので、8月中旬以降で実施したい。委員の中には、業務の関係で8月以降のご希望や、9月に入ると忙しいという方もいらっしゃったので、事務局で日程調節をさせていただけたらと思う。

委員：今の御提案に対して委員から希望はあるか。では、来年度については、8月中旬以降の1か月ぐらいの間で開催という方向になるかと思う。

事務局：ご希望ある方は館内をご案内する。

委員：事務局には、今回出た皆様の提案、ご意見等を、今後の運営に活かしていただくよう、よろしくお願ひしたい。